

先行翻訳の紹介と考察 『古今和歌集』 938 番歌のイタリア語訳

Edoardo Gerlini エドアルド・ジェルリーニ

<先行翻訳の紹介>

Ikuko Sagiya, *Kokin Waka shū. Raccolta di Poesie Giapponesi Antiche e Moderne. Ariete, Milano* 2000. 560 頁より。

Immersa come sono nello sconforto, estirperei l'amara radice di questo destino, e come erba galleggiante, se ci fosse un'acqua che m'invita, mi lascerei trascinare via lontano.

(落胆に浸された私、この運命の苦い根っこを引き裂いて、浮く草のように、私を誘う水があれば、遠くへ引き連れさせてもらおう。)

1	Immersa come sono nello sconforto	1	落胆に浸された私、
2	estirperei l'amara radice di questo destino,	2	この運命の苦い根っこを引き裂いて、
3	e come erba galleggiante,	3	浮く草のように、
4	se ci fosse un'acqua che m'invita	5,7	私を誘う水があれば
5	mi lascerei trascinare via lontano.	6	遠くへ引き連れさせてもらおう。

<考察>

1. 詩形とリズムについて

韻を踏んでおらず、決まった詩形は使用されていないが、句の長さにある程度の気を配っているように見える。響きに関しては、*immersa* や *galleggiante* などの言葉は波が上下するような擬音語というエフェクトをなす。同じく、*lascerei trascinare* の「sh」という音は引き連れられる動きを表現する。

2. 詞書と作者名

作者名：Ono no Komachi

詞書：Composto in risposta al messaggio di Funya no Yasuhide, quando questi, nominato segretario presso il governatorato di Mikawa, chiese all'autrice: "Che ne dite di venire ad ispezionare la provincia?".

(文屋康秀が三河の検査官になって「地方の巡回に行ってはいかがでしょうか」と作者を誘ったときに、返事として詠んだ。)

2.1. 「(三河の) 掾」がどう訳されているのか

segretario (長官の意味) と訳されている。なお、養老令などの奈良時代の公文書を訳した Maria Chiara Migliore 氏は、「掾」を secondo assistente (第二のアシスタント) と訳した (Maria Chiara Migliore, *I documenti ufficiali del periodo di Nara (710-784)*. La Sapienza Orientale – Ricerche, Roma 2011, p. 63)。

2.2. 「県見」がどう訳されているのか

その国を見る、検査するという原文の意味は、パトロールの意味もある *ispezionare la provincia* (地方を巡回／検査する) と訳されている。

3. 和歌本文

3.1 わびぬれば (詫ぶ)

懸詞の解釈は脚注に追加されている。「このように落胆に浸された私」にして、*immergere* (浸す、沈む) という動詞で補足している。

3.2. 浮草

erba flutuante (浮いている草) はほぼそのまま訳されている。「身」は直接訳さず、「うき (浮き・憂き)」という掛詞は「この運命の苦い根っこ」と、「運命」などの補語を追加して説明をし、*estirperei l'amara radice* (苦い根っこを引き裂く) という表現で「憂き」を「苦い・辛い」という意味の *amara* で訳している。

3.3. 「いなむとぞ思ふ」

Mi lascerei trascinare via lontano (遠くへ引き連れさせてもらおう) と訳し、「思ふ」を略して、個人の動作 (行ってしまおう) というより、「させてもらおう」というニュアンスで訳している。浮き草のように波に身を任せる作者の心境をうまく表現している。

次に、筆者によるイタリア語への試訳を紹介する。

<イタリア語への試訳と日本語逐語訳>

Nella disperazione immersa, il corpo afflitto come alga flutuante, se un'acqua m'invitasse io me ne andrei, recidendo le radici.

(絶望に沈み、体が浮いている海藻のように苦しみ、ある水が私を誘ってくれれば、行ってしまおう、根っこを切って。)

- | | | | |
|---|--|-----|-------------------|
| 1 | Nella disperazione immersa | 1 | 絶望に沈み、 |
| 2 | il corpo afflitto come alga flutuante, | 2,7 | 体が浮いている海藻のように苦しみ、 |

3	se un'acqua m'invitasse,	3	ある水が私を誘ってくれば、
4	io me ne andrei	5,7	行ってしまおう
5	recidendo le radici.	6	根っこを切って

<考察>

1. 詩形とリズムについて

イタリア語では、9・12・7・5・8拍（音節）で、日本語の5・7・5・7・7と異なるパターンでも、メリハリのある構造を立ててみた。響きに関しては、*immersa*、*afflitto*、*flutuante* などの子音の類韻で、波に沈むような擬音語を使ってみた。ただし、この効果は、イタリア語を母国語とする読者にしか通じない可能性がある。同じく、最後の *recidendo le radici* という類韻で、根っこが切られている音「r/c」を表現する。

2. 詞書と作者名の試訳

Quando Fun'ya no Yasuhide, divenuto ispettore della provincia di Mikawa, le mandò a dire “Vorreste accompagnarmi durante la ronda nella provincia?”, [l'autrice] compose in risposta [questa poesia].

（文屋康秀が三河の国の検査官になった時、「地方の巡回にお供していただけませんか」と言い伝えたのに対し、〔作者は〕返事として〔この歌を〕読んだ。）

2.1. 「(三河の) 掾」がどう訳されているのか

ispettore（検査官、警察の場合は刑事の意味）と訳した。養老令などの奈良時代の公文書を訳した Maria Chiara Migliore 氏は、*secondo assistente*（第二のアシスタント）と訳したが” (Maria Chiara Migliore, *I documenti ufficiali del periodo di Nara (710-784)*. La Sapienza Orientale – Ricerche, Roma 2011, p. 63)、私はその官職の役割をより分かりやすくするために *ispettore* を選んだ。「ぞう／じょう」は「主典（さかん）の作成した文案を検査して署名」（『日本国語大辞典』「判官」）するなど、公文書が正しいかどうか確認する役割でもあったので、*ispettore*、もしくは *revisore*（審査官）は妥当だろう。*Ispettore* は次の「あがたみ」の語釈にも通じる。

2.2. 「県見」がどう訳されているのか

その国を見る、検査するという意味で理解した上で、パトロールの意味もある *ronda nella provincia*（地方での巡回）にした。

3. 和歌本文の試訳

3.1 わびぬれば（詫ぶ）

Nella disperazione *immersa* にして、*immergere*（浸す、沈む）という動詞で補足した。「詫び」を *disperazione*（絶望）として訳した。やや強い表現かもしれないが、例えば、先に紹介した驚

山郁子氏のイタリア語訳『古今集』では *sconforto* (落胆) として訳されている。

3.2. 浮草

alga fluttuante (浮いている海藻)。Erba (草) という語は水中の植物にあまり使用しないため、*alga* にした。ただ、想像される植物は、浮き草とはやや異なるかもしれない。

3.3. 「うき (浮き・憂き)」という掛詞

afflitto (苦しんでいる) という形容詞を *corpo* (身) という名詞につけて、「浮いている海藻のように苦しんでいる身」と説明的に訳した。

3.4. 「根を絶えて」

recidendo le radici (根を切って)、ほぼそのままだが、*r/*と*ʎ/*の繰り返しで、根っこを切り裂くような音を表現する擬音語として考えても良い。

3.5. 「いなむとぞ思ふ」

io me ne andrei (～であれば、行ってしまいたい)。否定の意味の否むという大塚英子氏の説は手放しでは受け入れないが、*me ne andrei* つまり *andarsene* という語句はただ「この場所を去ってしまう」という意味で、康秀の誘いを受けたか、断ったか、はっきりとは答えていない。つまり、原文のように少々曖昧な言葉使いをしてみた。